

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 泰斗福祉会	施設長 代表者	近藤 浩之	法人・ 事業所の 特徴	<法人の方針> ・私たちは、利用される方々の生活をスタッフが丸となって支え、共に笑顔のある毎日が送れるよう支援します。 ・私たちは、人が集まり、支え合い、開放感のある時間を共有して誰にも開かれた当たり前の生活を地域の皆様と共につくっていきます。 ・「風早に行けば何とかしてくれる」と思っていたいただけるようなサービスを提供します。 職員は、上記の理念を常に念頭に置き、行動します。
事業所名	小規模多機能 にじいろ	責任者 管理者	宮本 武		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1	1	3	0	1	1	0	3	0	10

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今後も記録に関しては継続して行い現場職員に周知・共有していけるようにしていきます。こまめにミーティングの時間をとり利用者様の情報共有だけでなく職員間の連携がとれるよう努めていきます。	月1回の職員会議以外に、ご利用者様のケアや支援方法、新規利用者様の受け入れに伴う事前のケアカンファレンスを朝や日中の空き時間を有効的に活用し、こまめに話し合いに取り組む事ができました。	事業所自己評価を事前にきちんと説明してから、地域かかわりシートを配布すべきだった。	各運営推進会議を活用しながら、改善計画についての取り組みや現状の課題等を随時発表していきます。また外部評価に関連した内容や項目に沿って、事前に分かりやすく説明した上で、地域かかわりシートを配布していきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	今後は来訪者に対して施設玄関自動ドアの施錠に関しての説明が全職員ができるようになります。にじいろの出入り口も事業所の活動・様子が分かるよう暖かい時期になれば開放します。②来客者への丁寧な対応や③研修会参加に関しては継続して行います。	外部からの来客者やご家族様に対して気持ちの良い挨拶や丁寧な対応を行いました。同法人内の研修会へ積極的に参加し、自己研鑽に努めましたが、三交代の勤務形態の為、日勤者以外欠席になることが多かったです。	以前は自動扉が開かなかったり、入り口が暗かった。人がいるのか分からなかったこともありました。しかし、入り口や廊下が明るくなり、職員の態度も感じよく、明るく対応しているので良くなっています。	地域の方々に足を運んで頂けるよう、明るく入りやすい雰囲気作りに努めていきます。具体的に、事業所内外を自由に歩き来できるよう、扉を開放します。入り口は施設の顔であり、来訪者への丁寧な対応は継続していきます。また事業所の入り口が分かりやすいように玄関入り口に看板を立てかけます。
C. 事業所と地域のかかわり	家族様とのやりとりが直接できるように送迎には現場職員が対応します。「いきいきカフェ」を継続して地域の憩いの場として浸透し、地域とのつながりをひろげていきます。職員間で気持ちの余裕がもてるよう業務改善や意見交換等を行い協体制を整えて地域との関わりがもてるようにします。	送迎は、出来る範囲内で現場職員が行い、ご家族様へ利用状況をこまめに報告しました。また送迎や訪問時、ご家族様から問い合わせや相談等があった際は、例えば小さな事柄でも他職種や上司に報告・相談し、早めにご家族様に返答する事ができました。毎月第3日曜13:00～16:00に開催している「いきいきカフェ」に、現場職員が順番に参加し、カフェを通して地域の方々	どのようなサービスをしているのか民生・児童委員も分からなかった。関わりを持たない地域の方は、もっと分からないのでは。	今後も継続して、ほのぼのの新聞や運営推進会議を通して、事業所内で行っているサービス内容を分かりやすく説明していきます。「いきいきカフェ」に来られた方に事業所を紹介したり、地域に発信していきます。

D. 地域に向向いて本人の暮らしを支える取組み	<p>ケアマネだけでなく現場職員も地域連絡会等の地域の会議に参加して全職員が地域の社会資源の理解を深めるのも一つの方法であり検討したい。</p>	<p>三交代で職員の配置もあり、現場職員が地域連絡会(サービス調整会)に参加することは、出来ませんでした。しかし、ケアマネが参加し得た情報を、職員会議や連絡ノート等で情報を提供し、理解を深める努力をしましたが、まだまだ不足していると思われます。</p>	<p>これまでの説明がなかった為分からないから、仕方がないのでは。</p>	<p>ご利用者を連れて、その方が暮らしている地域に向向いて行きます。また連続の宿泊サービスを利用されている方は、苞木地区の新しい関係作りを支援していきます。具体的に、前回同様に、公民館祭りや施設交流会に参加し、地域との関係が切れずに継続できるように支援します。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<p>外部評価で出た意見をどう改善したか報告できるようにします。 運営推進会議で出た意見も事業所内で検討し改善できるようにしていきます。 ①書面や口答伝達だけでなく、ほのぼの新聞や活動の写真等で生活や活動風景画を想像できるようなものにしていく。 ②開催場所を実際の利用者の過ごされている中で行い、紙面だけでなく生の様子も把握していただくことも検討中。①②に関しては継続して行います。</p>	<p>運営推進会議開催時、事業所を見学して意見交換の場を設けることができました。 運営推進会議やほのぼの新聞を通し、事業所での活動報告に写真を記載して、少しでも利用状況等雰囲気を感じて頂けるよう工夫しました。</p>	<p>運営推進会議で出た意見が反映しており、優秀だと思います。</p>	<p>今後も、ほのぼの新聞や運営推進会議を通して、事業所内の活動状況や雰囲気を分かり易く伝えていきます。また改善点を次回の運営推進会議にて報告したり、事例検討等、事業所内の運営について説明していきます。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	<p>防災時の地域(住民)も含めた連絡体制を整える。 緊急時に地域の方に協力を得られるように日頃から何かあった時はお互いが助け合える関係をつくり連携をはかる。 防災訓練が決まり次第、町内会長に連絡し地域住民が集える一つの場になれるようにします。</p>	<p>昨年11月に避難訓練と消防訓練を実施した際、地域の方々にも呼びかけ参加して頂きました。 今後も、自然災害時等、いざという時に協力体制が取れるよう、日頃から地域の方々々と連携を密にしていきます。</p>	<p>地域と合同の避難訓練を重ねることで、地域に浸透するのでは。避難訓練・防災訓練の開催時に地域にアピールし、地域の方が少しでも多く参加してもらえるような工夫が必要だと思います。</p>	<p>地域の防災訓練開催時には、地域の方がたくさん参加して頂けるよう呼びかけ等「いきいきカフェ」等を通じて積極的に協力・参加します。引続き、地域の方に協力を得られるように日頃から何かあった時はお互いが助け合える関係を作り、地区会長との連携を図っていきます。</p>